

東海道五十三次
 東海道第十七宿
 興津 おきつ



興津は清見湯を望む風光明媚な地として知られてきた。古くは興所が置かれた軍事交通の要衝であり明治以降は元勳たちの別荘地であった。長い歴史を刻んできたこの海辺もいまではすっかり変貌している。

いさ興津宿は国道二号線沿いの少々殺風景な場所(にぞとる)このまっさらなが名刹清見寺だけは威厳ある姿を採る。清見寺は清見湯を見下ろす風光明媚な高台に立つ寺院で「東海道区」となわれた。山明と境内の間を鉄道に分断されてしまっているが

な。素然、有若としてかえそ海みがある。今別氏の人質になつていた徳川家康が学問を志したといふ家康の手習いの間や家康が接木した臥龍松などがある。



名物
 万能膏、ろくそ、蕎麦切、興津鯛

兵どもが夢の跡に
 興津は明治と昭和初期には西園寺公望、井上馨ら政府要人の高級別荘地であった。

この時期が興津の全盛期でモダンな洋風建築、洋食店などが立ち並び保養客でにぎわったという。